

Life のそばで生きていく

Life それは命、Life それは生活、Life それは人生

高知県立大学看護学部は、1952年に高知女子大学家政学部看護学科として我が国で初めて4年制大学で看護学教育をスタートして67年、実践—教育—研究の連環の中で「看護学とは何か」を探究し、将来に拓かれた看護学の構築にチャレンジし続けています。大学院は、1998年に看護学研究科（修士課程）としてスタートし、2014年に看護学専攻博士前期課程・博士後期課程、博士課程をもつ研究科へと発展し、創設期から拡充・発展へと向かっています。

本年報は、看護学部・大学院看護学研究科の教育活動・研究活動・地域貢献活動を中心にまとめたものです。看護学部は、高知女子大学の“看護学を探究する教育”“看護実践を大切にす教育”“学生の個性を伸ばす教育”を大切に、令和の時代を担う次代の看護専門職者の教育に力を注いでいます。ディプロマ・ポリシーの獲得状況の評価を基にカリキュラムの課題を抽出し、災害看護、国際看護の必修化や異文化理解看護フィールドワークや看護地域フィールドワークの開講や、データサイエンスや英語論文講読を強化する科目を充実させるとともに、新たな教育方法について探究しました。

また、学生が国内外の地域の健康課題について学ぶ教育環境づくり、学生のニーズを重視した安全で豊かな学生生活の支援及びキャリア支援を行いました。学生は将来について考え、看護専門職者としてのアイデンティティを形成すると共に、広く社会に目を向け、立志社中の活動やボランティア活動、国際交流活動などに積極的に取り組みました。新たに国際交流・地域貢献に興味をもつグループも誕生し活動が楽しみです。

大学院では、博士課程リーディングプログラム（文部科学省大学改革推進補助金）の2期生2名（1名はインドネシアからの留学生）が災害看護グローバルリーダーとして修了しました。災害看護学については、次年度からの新たな5大学の連携体制を整備し、博士前期課程・後期課程に新カリキュラムを開発しました。また、修了生・在学生対象にディプロマ・ポリシーの獲得状況の調査を行い、研究科の研究力、国際性・学際性の強化に取り組んでいます。博士前期課程では、研究コースに「母性看護学」「災害・国際看護学」領域の開設や定員増を決定、学部生の学内推薦入試の新設などに取り組みました。

教育研究活動については、FD活動を活発化し、教員の研究力・教育力・学生を支援する力、国際化に対応する力、社会の動きに対応する力を伸ばすことを目指して努力しました。また、研究環境促進委員会を中心とした活動により、競争的外部資金に応募し、前年度からの継続と合わせて37件の競争的外部資金を獲得し、他大学の教員や実践家、大学院修了生と共同で研究に取り組み、その成果の発信や、学内の戦略的研究推進プロジェクト研究に取り組んでいます。

地域貢献活動では、高知医療センターとの包括的連携事業や健康長寿センターの活動に積極的に参画し、一般市民を対象とした健康文化の創造を目指す活動や、専門職者を対象とした看護相談室、公開講座などを実施し、専門職者の方々と共に看護の質の向上に努めました。寄付講座「高知県中山間等訪問看護師育成講座」や「退院支援事業」をはじめとする高知県と協働した事業、高知県看護協会との連携事業など、専門職者の教育に取り組みました。

令和2年度は、第二期中期計画の4年目となります。令和という新しい時代に伝統を継承しつつ新たなことにチャレンジし、さらに充実・発展していくよう、努力していきたいと考えています。

高知県立大学看護学部
学部長 藤田佐和